

第 11 回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨

日 時 2016 年 5 月 16 日 (月) 10:00~11:50

場 所 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 第二大会議室

1. 燃料デブリ取り出し方針決定に係る検討状況について

(1) 総合的な炉内状況把握の成果について

IRID より、平成 27 年度事業「事故進展解析及び実機データ等による炉内状況把握の高度化」の成果について説明があった。

専門委員からの主な意見は以下の通り。

- 燃料デブリの存在場所ごとの推定値に関し、「信頼度」が記載されているが、考え方の根拠を記載すべきである。また、まとめ表において、幅を持った「評価値」と一つの値で示す「代表値」が示されているが、それぞれ定義を記載すべきである。
- 解析等の結果に基づきまとめている評価結果を、今後の技術検討に向けて、評価精度の向上や追加が必要な情報を整理・確認した上で進めることが重要である。

(2) PCV 補修・止水技術に係る課題について

IRID より、研究開発事業の課題として、PCV 補修・止水技術に係る課題について説明があった。

専門委員からの意見とそれに対する説明が以下の通り行われた。

- PCV 上部補修・止水作業の被ばく線量の試算値と、現状の除染作業の困難さを考えると、今考えているやり方に注力しても、求められる時期に水張りができるフィージビリティが低い可能性があると思われる。別プランについても考えることが必要ではないか。
- 東京電力より、汚染水として建屋外に漏れ出るインベントリを最小化していくために、小循環ループを構築し、かつ循環水の浄化により放射性物質濃度を低減した上で、燃料デブリ取り出し作業中の局所吸引を行うことによりα核種の含有量を少なくすることが必要と考えていることが説明された。

(3) 燃料デブリ取り出し方針の検討について

NDF より、燃料デブリ取り出し分野の戦略プラン概要案について説明があった。

専門委員からの主な意見は以下の通り。

- 気相部の閉じ込めバウンダリに関して、PCV の完全な補修や建屋の完全な密閉ができない可能性を考慮すると、負圧管理により閉じ込めるのが現実的である。この場合、地震発生時等の外部事象によっても

負圧バウンダリが崩れないように設計するべきである。

- 取り出しを優先する燃料デブリについて、どのような考え方で決めるのかを明確にして進めるべきである。
- （２）項で議論されたのと同様に、燃料デブリ取り出しの工事に関しても、準備段階の作業での被ばくを低減する事が大きな課題である。燃料デブリを取り出す前までの作業での被ばくについて、精度を上げて検討すべきである。

以 上